

大学協同による地域密着型水循環動画プロジェクト

徳島市上下水道局

1. 抱えていた課題

上下水道統合により、水源から使用後の処理までを一体的に担う体制となったものの、その効果や意義は市民に十分浸透していなかった。特に水循環や上下水道の役割は、日常生活では、意識されにくく、将来世代への理解促進が課題となっていた。

そこで、環境教育や社会科教育の中で水循環を学ぶ機会があり、家庭や地域への波及効果も期待できる中学生世代に着目した。一方で従来の施設見学やパンフレット中心の広報では、上下水道を一体的に理解してもらうことや、自分の暮らしと地域の河川とのつながりを実感してもらうことが難しい状況にあった。

2. 広報活動概要

四国大学と協働し、中学生向けの水循環教材動画を制作した。動画では、地元河川を題材にダムから取水・浄水・配水から下水処理、自然への還元までを一連の流れとして紹介し、上下水道統合による一体的な取組をわかりやすく伝えている。

制作段階から鳴門教育大学附属中学校の協力を得て、授業で活用しやすい構成や表現方法を検討した。専門性だけでなく、履修内容や中学生の理解度にも配慮した内容とすることで教育現場で実践的に活用できる教材として制作した。(2026年3月17日公開)

完成後は、鳴門教育大学附属中学校において実際に授業を実施し、生徒が地域の水循環や上下水道の役割を身近な問題として学ぶ機会を創出した。動画は、市公式YouTubeでも公開し、学校教育にとどまらず、保護者や地域住民も視聴できる形とすることで、幅広い世代への情報発信につなげている。



図1. 水循環動画イメージ

3. 広報活動の狙い

生徒が身近な河川と自らの生活との関係を実感し、水循環や上下水道の役割への理解促進につながった。また、「地域の川を守りたい」「水を大切にしたい」といった感想も得られ、郷土愛や環境意識の醸成に寄与した。さらに、大学との連携により、行政単独では得にくい若年層への訴求力向上や新たな広報手法の構築につながった。

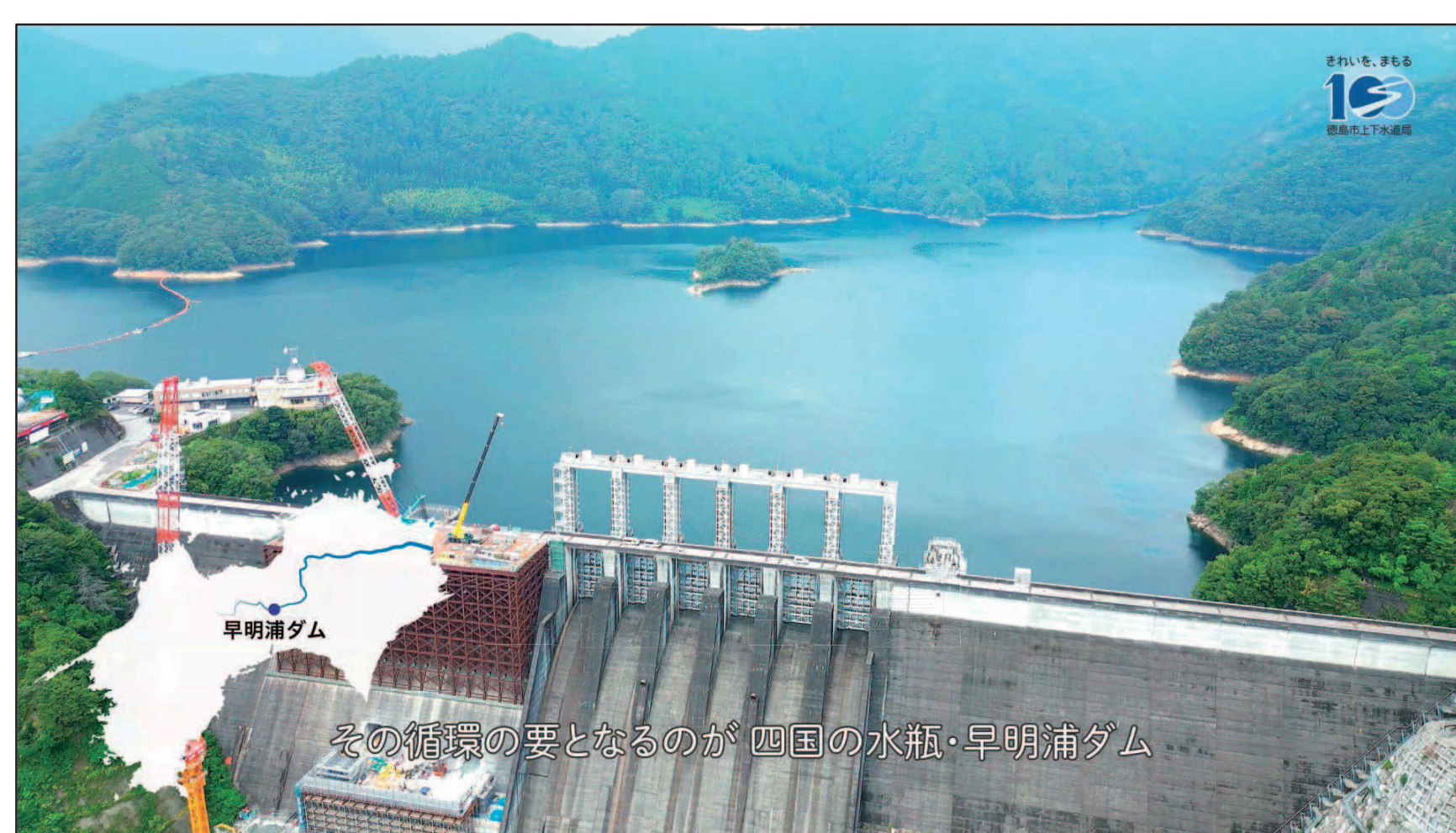


図2. 早明浦ダム(高知県)でのドローン撮影



図3. 中学校での特別授業

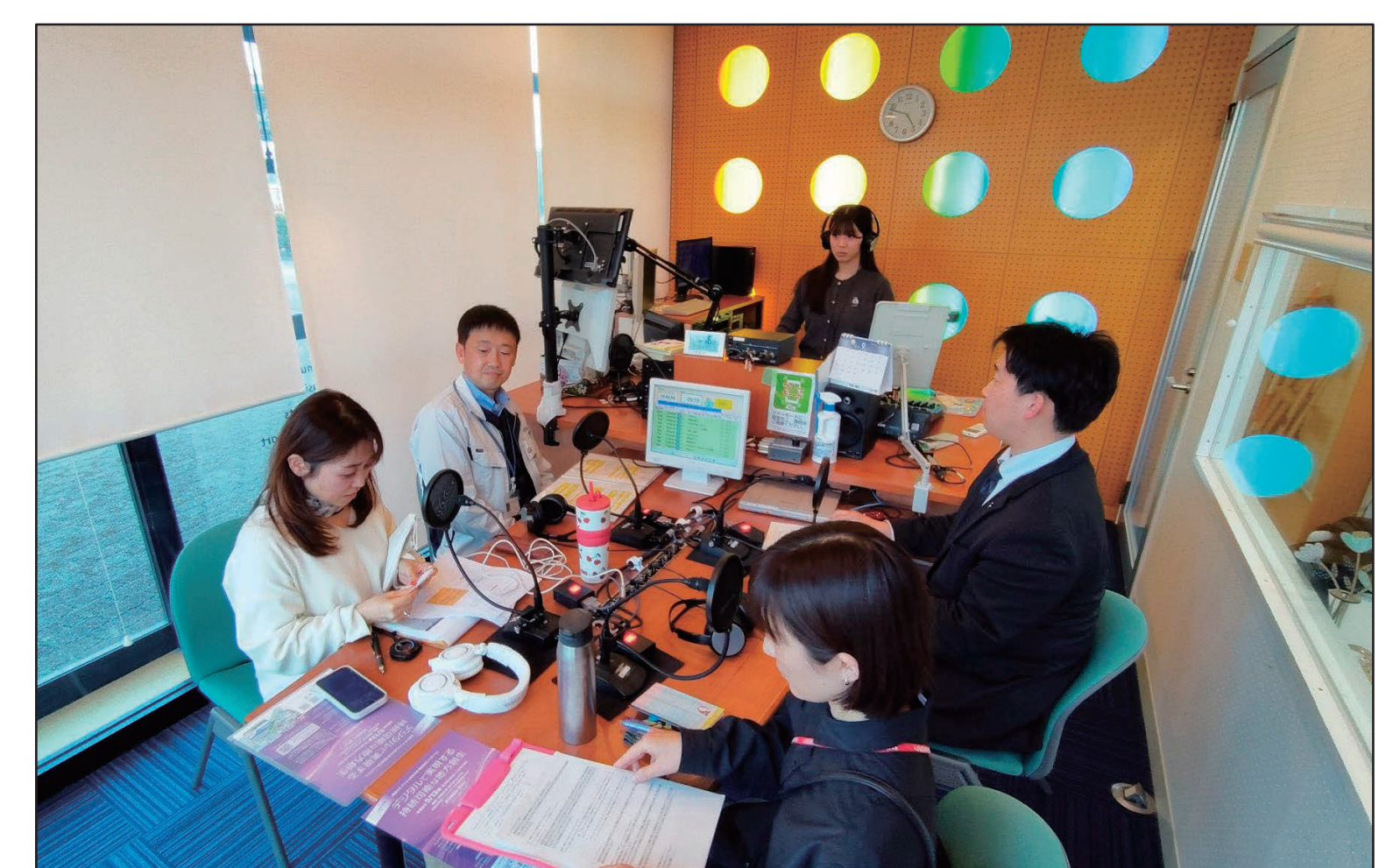


図4. 地元ラジオ局でのプロモーション
(大学教員・中学校教諭・市職員出演)

4. PRポイント

大学との連携により、教育的知見や専門性を取り入れた質の高い教育教材動画を制作した。

専門的内容を中学生にも理解しやすく整理することで、教育現場で活用しやすい実践的な教材となっている。学校授業で継続的に活用できるため、一過性に終わらない高い波及性を有している。

また地元河川を題材に、上下水道を一体的に学べる構成としたことで水循環を身近な問題として捉えやすくし、郷土愛や環境意識の醸成につなげた。

さらに地域資源を活用しながら大学の知見を導入することで費用を抑えつつ専門性と訴求力を両立した点も特徴である。

上下水道統合の視点を盛り込んだ教材動画として新規性が高く、他事業体にも展開可能な取組である。



図5. 動画メッセージ



市公式YouTube 図6. 処理場撮影
水はめぐり、暮らしをつなぐ

